

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

## プラチナ社会への貢献

菊池南中学校2年 城 亜子さん



今回参加したプラチナ未来人財育成塾@オンラインでは、7名の方々が講義を行ってくださいました。

1人目の小宮山宏先生は「2050年の世界から自分を考えてみよう」というタイトルで三つのことを話されました。

1つ目は、「人類史の転換期 キーワードは飽和」です。人口や人工物、物質の飽和は先進国である日本の現実で、2050年には世界中で飽和するそうです。そのため、課題先進国から課題解決先進国になっていく必要があります。2つ目は、「プラチナ社会2050年のビジョン」です。2050年の日本は資源自給率が70%以上の国家になることが目標だといわれました。そうすることで資源国も非資源国もない世界になり、日本に50兆円産業が生まれます。AIやICTビッグデータを活用して、健康や自立の産業化をしていくべきだとおっしゃいました。このように資源自給や生涯自立などの目標を達成することでプラチナ社会の実現につながります。必要なのはアクションです。3つ目は、「コロナを奇禍として未来へ 自律分散協調系

へ向かおう、エンジンは皆さん」です。現在流行している新型コロナウイルスは「プラチナ社会へ加速せよ」というメッセージであり、リアルとオンラインを組み合わせたハイブリッドでリアル以上のことを行ったり、教育を人と社会が協力し成長し続ける「超教育」システムに変化させたりしていく必要があります。

2人目の菊池康紀先生は「多様な解を考え続ける力とは」というタイトルで講義があり、私たちがすべきこと、できること、したいことは何なのかを考えることができました。やりたい事は変わるが、できることは突然増えたりしないため、今できることを増やすことが大切です。

3人目の高村ゆかり先生は「2050年カーボンニュートラルに向かう世界」というタイトルで、今起きている環境問題はもう戻らないため、これ以上問題を増やさないことや、明確な目標をもち、自分だけでなく周りも一緒に達成することの重要性を感じました。

4人目の山極壽一先生は「今の社会でおかしいと思うことをゴリラの目で見てみよう」というタイトルで、

色々なことに疑いを持ち、視点をかえて考えることの大切さについての講義が行われました。

5人目の江間有沙先生は「人工知能(AI)と私たちの社会」というタイトルでAIをうまく使うためには、AIの技術を道具として使う必要があるとおっしゃいました。

6人目の平石和昭先生は「経済協力と日本の国際貢献」というタイトルでお話しされ、日本は途上国に対してお金をあげるのではなく、相手国が自立するために貸しているというお話をされました。そのことから先のことを考えて行動することが大切だと思いました。

7人目の加藤百合子先生は「動き出す力」というタイトルの講義を受けて、相手が何を課題として考えているかを把握することが重要だと思いました。

今回、たくさん先生の講義を受けたグループワークで色々な意見をきいたりすることができました。今回学んだことを周りの人に広め、プラチナ社会の実現に貢献していきたいと思えます。

# プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

## 環境から目指すプラチナ社会

菊池南中学校2年 小田健慎さん



8月に開催されたプラチナ未来人財育成塾で学び、日本のあるべき姿について考えました。その姿とは、環境に優しく行動できている社会だと思えます。日本は、先進国として、発展途上国などに課題解決のモデルとして行動する立場です。そこで、当日のオンライングループミーティングでは、課題解決先進国として日本がどのような姿の国であるべきなのか議論しました。そこでは、経済発展が続く社会、技術発展により環境問題が解決された社会、様々な場所での自動化・無人化が進んだ社会などが挙げられました。つまり、環境という視点で考えたプラチナ社会とは、世界中の様々な問題が解決された「持続可能な社会」ということです。

私自身も「未来まで地球で過ごせる、地球環境にも配慮した自然豊かな社会」をプラチナ社会だと考えました。このように考えると、私たちが目指すプラチナ社会と今の日本は程遠いということが分かりました。

今、私たちが一人一人が動き、変わらなければ、環境問題は解決できず、持続可能な社会の実現も難しくなる

かもしれません。地球環境がさらに悪化してしまうと、人々の居住環境の悪化や資源の枯渇にもつながるかもしれません。だから、持続可能な社会を目指す上で、環境問題を一番早く解決していかなければならないと思えます。このことから私は、自分の考えたプラチナ社会を実現していくために、どのような行動が必要なのか考えました。

1つ目は、個人個人がビジョンを持つことです。物事を様々な視点から見て考えたり、十年後、二十年後を見据えながら今できることを考えたりすることがプラチナ社会の実現へつながると思います。

2つ目は、大人数で動くことです。プラチナ学習で、大きな企業や大人数で二酸化炭素排出削減に向けて動くことで、大幅に二酸化炭素排出量を減らせるということを学びました。一方で、少人数、小規模だとあまり減らすことができないということも分かりました。だから、大人数で二酸化炭素排出量を減らすことができるよう、声かけなどをしていきたいです。

3つ目は、私たちにできることか

ら始めることです。普段から環境に配慮した生活を心がけることや、小まめに電気を消す、ごみ拾いなども積極的にしたり、資源を大切にするなど、一つ一つの小さなことが環境の改善につながっていくと思えます。小さなことを大人数で行うことが大切だと思えます。

菊池南中では、これまでもESD教育の一環としてSDGsを意識した取組を行ってきました。目標の中には、「住み続けられるまちづくりを」「気候変動に具体的な対策を」というものもあります。これらを達成するために環境問題を意識することがとても大切だと思えます。

今回学んだことや考えたことを、生徒会として学校中に発信したり、自分の身の周りの人にも伝えるなどしたりして、普段はあまり環境のことを気に懸けない人にも環境に配慮して生活してもらえよう、環境問題の解決に向けて動いていきたいです。自然豊かな菊池市に住む私たち中学生にできることも多くあるはずなので、自分たちにできることを探し、環境を大切にしたいプラチナ社会を共に目指していきたいです。